

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2023年11月1日 242号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

気鋭の医師、
レダで医療支援構想



レダの従業員の健康相談。左が井上医師。8月13日



スピードボートに乗って、井上医師と看護師がレダに到着。8月12日



レダに記念植樹:「一心くん」と名づけました。8月15日



カトルセ・デ・マジョ村診療所でのヒアリング。8月14日

● **医師によるオンライン診療・医療相談へ道**
● **レダへの医療支援**…これまでこちらの考えていた医療的なニーズが、現地と噛み合わないという感覚を感じていましたが、初日の訓読会に参加し、「このレダの空間は、ものすごく神様に守られてきたから、大きな問題がほとんどなく、ここまでこれたのだ」ということを感じました。

● **エスペランサ村の状況**…村に診療所はありますが、医者はいなくて看護師のみです。患者さんには政府から送られてくる薬を無料で渡します。高血圧が多いのですが、塩分の取りすぎが原因だと思います。また、川の水をそのまま飲むので下痢も多いです。歯医者がおらず虫歯も多いです。飲む場合、その手段がないため「ボートを寄付してくれ」と言われました。

● **ディアナ村**…ここも医療の状況は大きく変わりませんで行う中で培われた信頼関係の大きさを感じました。診療所でした。学校の先生方も迎えて下さり、これまで奉仕活動を行ったのですが、今は看護師不在で、(次面につづく)

去る8月12日から15日まで、精神科医、井上貴裕氏(37)が看護師1名を伴つてレダと周辺地域を訪れ、精力的に医療状況を調査してきました。井上医師は、(二社)CAMPの事務局長として、カンボジアにおける医療奉仕活動にも携わっています。以下、井上医師のレポートの概要です。

● **レダの医療状況**…最も近い医療施設まで60キロメートル余もあり、その医療施設も診療所レベルです。日本でごく当たり前の医療を受けるためには、遠路、首都アンシンオンまで行かなくてはなりません。

● **経緯**…どのような医療支援ができるのかを考えるために、まずは現地の状況を肌で感じ、現地のニーズを知るための観察が必要! まずレダで、皆さんの活動現場を観察することにより、起こりうる医学的問題点を知ることです。そして活動の現場での困りごとをヒアリングしました。

● **医療相談**…レダで働くインディヘナの方7名と、日本の方数名の相談を受けました。インディヘナの方々の症状は、虫刺されが化膿したもの、腰痛、白内障、食後の腹痛、膝の痛み、頭痛等でした。



お昼は牧場風の料理をいただきました。9月10日



カナン牧場を訪問したレダの若いメンバーたち。9月10日



8月・9月生まれのメンバーの誕生を祝って、盛大な和動会を催しました。9月26日



剪定作業の合間の岡崎氏。9月20日



井上医師(左)に養殖場を説明する滝川さん。8月13日



公館2階の回廊にて、島田夫妻の誕生週の記念撮影。8月26日



レダ第一農場でパパイヤを収穫するチャパボラメンバーたち。10月6日

パクーを釣ったチャパボラ。9月25日

るい的がるといふ仕事はを思合補延れ医の関係がレダと感じた目だといふ活動で、心がすと感動的ので、ます感の、にす。きで、それ開貢動医が端合え医療なうい奉の意れました。けし中奉うい担なの奉ると味をのくて心仕すかう奉で仕と味をの

違ろ何動いります。これまで各村の住民たちに對して尽くされてきたもののが大きく、信頼します。完全にできてあります。医療奉仕活動もなしとは全然

●まとめ…これまで機能せず、廃墟のようになつていました。ペランサと同様、ディアナでもエスプローチはできそうア

レダSNAP

(一面より続く)全く

レダの電気屋さん



レダのジェネレータ(発電機)：奥からI、II、III、IVと番号が振ってあります。現在、構内で使用できるのはI、IIIの2台のみです。

Iの最大出力は150kVA、IIIの最大出力は110kVAです。

【第4回】前回に引き続き、レダの電気事情についてです。現在レダではAND Eというパラグアイ国営の電力会社からの給電を受けていますが、その電気の品質がとても悪く、時期によりますが停電は週に何度もあります。また、時にはその停電が数日にわたることもあります。更に悪いことに、電圧も不安定で、公称電圧は220ボルトなのですが、150ボルトくらいにまで下がることがあります。その結果、電気製品が壊れてしまうこともあります。逆に高い時は260ボルトを超えることもあります。その結果、停電の時は、ジェネレータ(発電機)を回すことになります。AND Eの電気がレダに導入されたのは2009年ですが、ジェネレータはその8年前に設置され、すでに22年ほど使用しているものです。

ジェネレータは4台あるのですが、現状、構内電源として使用できるのは2台です。この2台をメンテナンス・修理しながら、運用しているのが現状です。次回は電圧変動の詳細についてです。(山崎茂章)

ついてです。現在レダではAND Eというパラ

グアイ国営の電力会社からの給電を受けていま

すが、その電気の品質がとても悪く、時期にも

よりますが停電は週に何度もあります。また、

時にはその停電が数日にわたることもあります。

更に悪いことに、電圧も不安定で、公称電圧

は220ボルトなのですが、150ボルトくらい

にまで下がることがあります。その結果、

電気製品が壊れてしまうこともあります。逆に高い時は260ボルトを超えることもあります。その結果、

停電の時は、ジェネレータ(発電機)を回すこと

になります。AND Eの電気がレダに導入されたのは2009年ですが、ジェネレータはその8年前に

設置され、すでに22年ほど使用しているものです。

ジェネレータは4台あるのですが、現状、構内電

源として使用できるのは2台です。この2台をメン

テナンス・修理しながら、運用しているのが現状で

す。次回は電圧変動の詳細についてです。(山崎茂章)

第26回パンタナール・ワンディセミナー開催

青年の活躍に感銘と希望！ 去る9月30日（土）

4階の研修室において、当法人の主催で「第26回パンタナール・ワンディセミナー」を開催しました。

副題は「レダはあなたの力を求めています」でした。当日は天候に恵まれ、ようやく爽やかになつた秋らしい空気の中、9時45分のオリエンテーションを

東京渋谷の国立オリンピック記念青少年総合センター4階の研修室において、当法人の主催で「第26回パンタナール・ワンディセミナー」を開催しました。

前に、続々と参加者が到着。参加総数は、

69名になりました。司会は今やベテランの和田賢一氏。「お

名前bingo」のミニ

ゲームで会場を和やかに整えると、実行委員長、高橋昭三氏

が開会のあいさつ。

一番目の講話は、柴沼邦彦理事による

第1回レダプロジェクト体験プログラム(本紙前月号参照)の体験報告。柴沼氏は同プログラムの指導スタッフとして参

加し、自身の目で直接見た青年たちの力

を紹介。柴沼氏は同

プログラムの指

導スタッフとして参

加し、自身の目で直

接見た青年たちの力

を紹介。柴沼氏は同

プログラムの指